

岡山県感染症週報 2015年 第37週 (9月7日～9月13日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

◆2015年 第37週 (9/7～9/13) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第35週	2類感染症	結核	1名 (20代 女)
第36週	2類感染症	結核	1名 (20代 女)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (50代 男)
	5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1名 (60代 男)
第37週	2類感染症	結核	4名 (20代 女 1名、70代 女 1名、80代 女 1名、90代 女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5名 (O26: 幼児 男 1名、小学生 女 1名、30代 女 1名、O111: 幼児 男 1名、O157: 小学生 男 1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (60代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- RSウイルス感染症は、県全体で39名 (定点あたり0.67 → 0.72人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。
- 伝染性紅斑は、県全体で25名 (定点あたり0.31 → 0.46人) の報告があり、前週より増加しました。
- 手足口病は、県全体で177名 (定点あたり3.52 → 3.28人) の報告があり、前週より減少しました。

【第38週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 2名 (O157: 幼児 女 1名、小学生 女 1名) の発生がありました。(9月15日～17日)

○次週、2015年第38週 (9/14～9/20) の感染症週報は、10月2日 (金) にホームページに掲載いたします。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第37週に5名の報告があり、岡山県の2015年第37週 (～9/13) までの累計報告数が、54名となりました。第38週 (9/15～17) には、さらに2名の報告があり、患者の発生が続いています。岡山県では、「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉、特にハンバーグなどは中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**は、県全体で39名 (定点あたり0.67 → 0.72人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **伝染性紅斑 (リンゴ病)**は、県全体で25名 (定点あたり0.31 → 0.46人) の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、岡山市 (1.21人)、美作地域 (0.33人)、備前地域 (0.30人)、倉敷市 (0.27人) で患者の発生が報告されています。この感染症は、特徴的な症状である頬の発しんが出現する7～10日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。妊娠中 (特に妊娠初期) に感染した場合は、胎児異常 (胎児水腫) や流産の危険があり、妊娠中の方は伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。
4. **手足口病**は、県全体で177名 (定点あたり3.52 → 3.28人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (5.36人)、真庭地域 (4.00人)、岡山市 (3.86人) の順に定点あたり報告数が多くなっており、岡山市、倉敷市では、発生レベル3が継続しています。流行のピークは越えたと思われますが、依然として多くの患者が報告されています。うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。

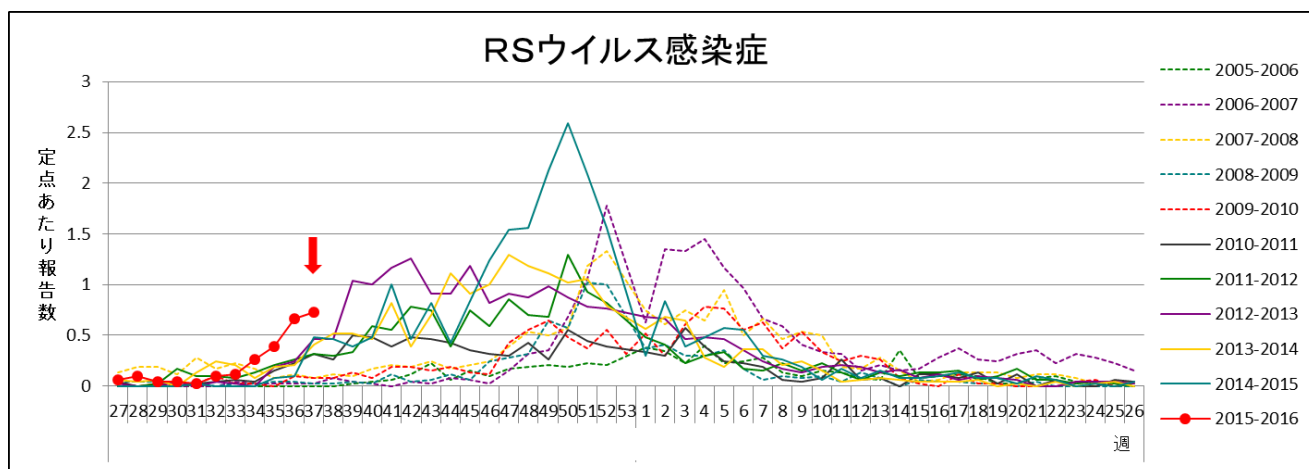
流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★★★★★
咽頭結膜熱	⬆	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	★
感染性胃腸炎	➡	★	水痘	⬆	★
手足口病	➡	★★★	伝染性紅斑	⬆	★★★★★
突発性発疹	⬆	★	百日咳	➡	
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	⬆	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡		クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ⬇ : 2 倍以上の減少 ⬇ : 1.1～2 倍未満の減少 ➡ : 1.1 未満の増減
⬆ : 1.1～2 倍未満の増加 ⬆ : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

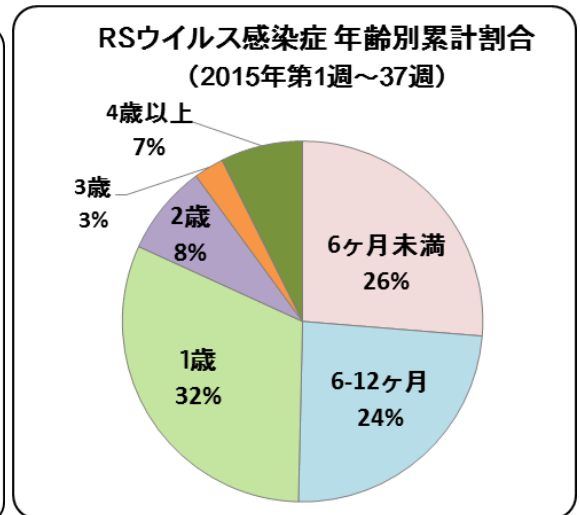
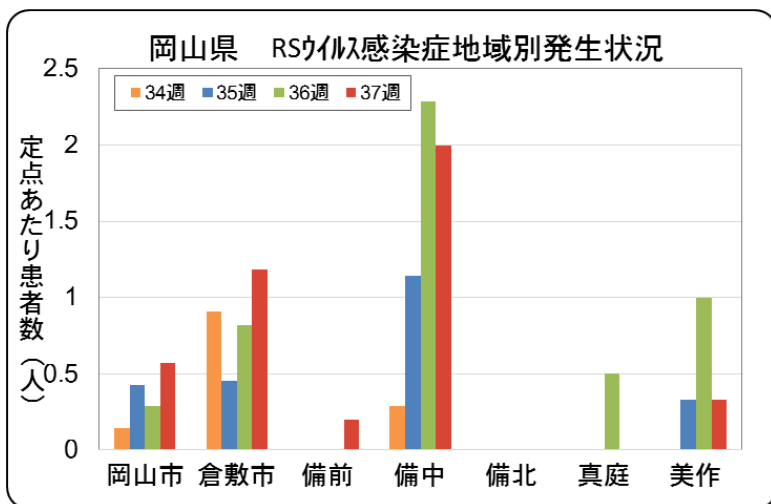
今週の注目感染症 RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週～翌年 26 週を 1 シーズンとしてグラフを作成しています。

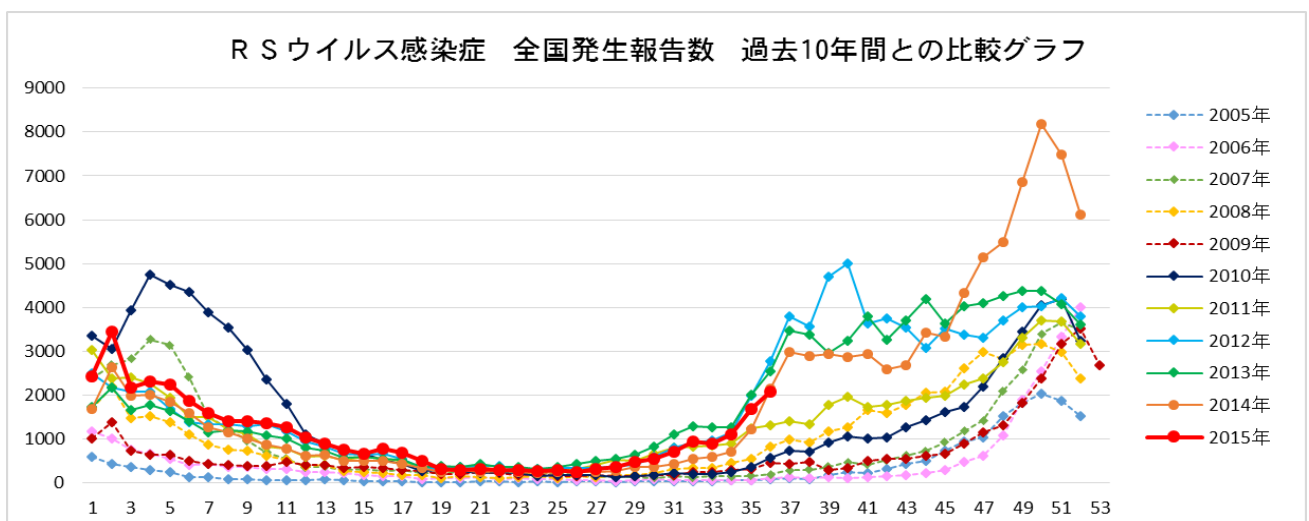
RSウイルス感染症は、県全体で 39 名（定点あたり 0.67 → 0.72 人）の報告があり、第 32 週（8/3～8/9）から連続して増加しています。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、備中地域（2.00 人）、倉敷市（1.18 人）、岡山市（0.57 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。2015 年第 37 週までの年齢別累計割合では、1 歳未満の乳児が全体の 50% を占めています。



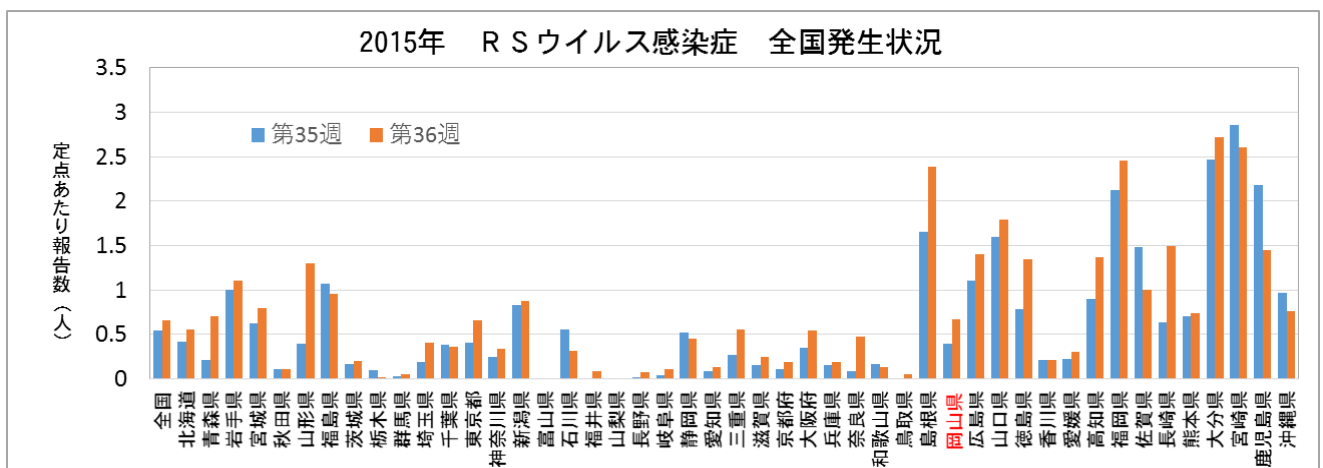
この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱か 38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのどが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されるため、今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。

[RS ウイルス感染症に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

【全国の発生状況】



全国の第 36 週の発生状況をみると、患者報告数は 3 週連続で増加しました。都道府県別では、大分県 (2.72 人)、宮崎県 (2.61 人)、福岡県 (2.46 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。西日本を中心に流行しており、特に九州・中国地方で患者の発生が多くなっています。



[IDWR 速報データ 2015 年第 36 週 \(国立感染症研究所\)](#)

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～「結核」知って予防。早めの受診。～

日本において、結核は過去の病気ではなく、いまだ年間約2万人の患者が新たに報告されており、依然として重要な感染症です。日本では、結核を知り、正しい知識を深める期間として、9月24日～30日を「結核予防週間」としています。「結核予防週間」には、結核予防意識の一層の普及を図るため、街頭キャンペーンや各保健所・市町村での普及啓発活動などを行っています。

- 咳が2週間以上続く。
- 微熱が2週間以上続く。
- 体がだるい。
- 急に体重が減った。



**こんな症状が続いたら、結核かもしれません。
早めに診察を受けましょう。**

【結核とは】

結核菌による感染症です。主に、咳などの飛沫により感染します。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のことも多くあります。肺以外の腎臓、骨、腸管など身体のあらゆる部分に病巣を作ることもあります。

【結核の予防接種や検診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後1歳までには、必ずBCGワクチンを接種するようにしましょう。（予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください）

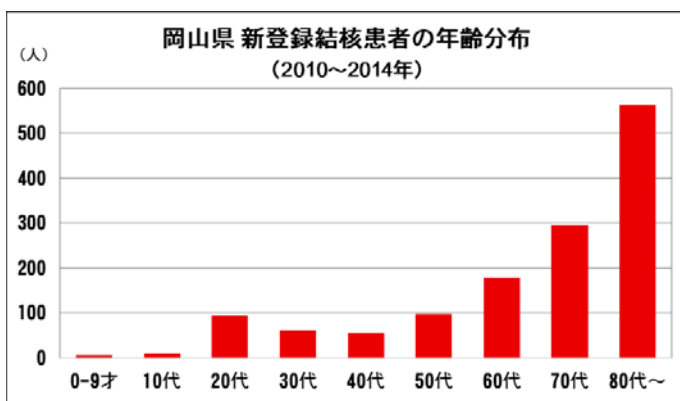
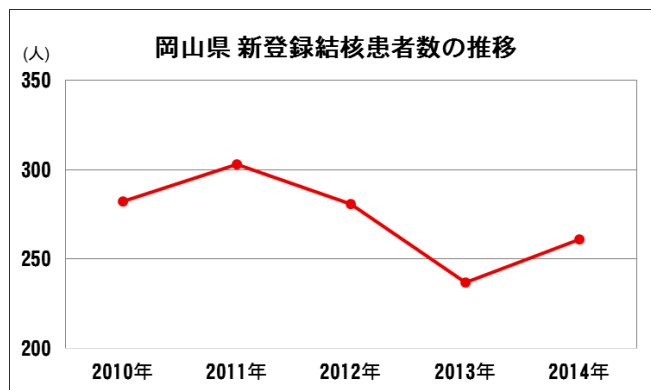
また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1年に1回は検診を受けましょう。

＜一般向け＞[結核とは？（結核研究所）](#)

＜医療従事者向け＞[結核医療相談・技術支援センターを開設しています！（岡山県 健康推進課）](#)
[結核研究所 Q&A 集 医療従事者の方向け（結核研究所）](#)

【岡山県の結核発生状況】

2015年第37週までに報告された結核発生届は、241件（患者151例、無症状病原体保有者85例、疑似症患者5例）となっています。岡山県内で新たに登録された結核患者の発生状況（2010～2014年）をみると、2012年、2013年と連続で減少していましたが、2014年は増加となりました。年代別では、70歳代以上の高齢者が多く報告されています。



【全国の結核発生状況】

厚生労働省の2014年度年報によると、全国の新登録結核患者は19,615名でした。年代別では、70歳代以上の新登録結核患者が全体の58.2%を占めており、結核患者の高齢化は年々進行しています。全国の人口10万人あたり罹患率は15.4で、前年（16.1）よりわずかに減少しました。罹患率については地域差がみられ、首都圏、中京、近畿地域などの大都市で高い傾向が続いています。岡山県の罹患率は、13.2と前年（12.0）より増加しました。

[平成26年結核登録者情報調査年報集計結果（概況）（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 37週

（ 2015/09/07～2015/09/13 ）

2015年9月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	39	0.72	8	0.57	13	1.18	2	0.20	14	2.00	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	13	0.24	8	0.57	3	0.27	—	—	—	—	2	0.50	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	5	0.36	12	1.09	5	0.50	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	228	4.22	47	3.36	41	3.73	42	4.20	24	3.43	19	4.75	18	9.00	37	6.17
水痘	22	0.41	14	1.00	4	0.36	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
手足口病	177	3.28	54	3.86	59	5.36	22	2.20	11	1.57	8	2.00	8	4.00	15	2.50
伝染性紅斑	25	0.46	17	1.21	3	0.27	3	0.30	—	—	—	—	—	—	2	0.33
突発性発疹	22	0.41	10	0.71	6	0.55	3	0.30	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	38	0.70	12	0.86	17	1.55	2	0.20	1	0.14	3	0.75	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	22	0.41	3	0.21	3	0.27	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	11	1.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	3	0.60	1	0.25	6	6.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00 ） （空白： 定点なし）

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	13	0.24	8	0.57	3	0.27	－	－	－	－	2	0.50	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	5	0.36	12	1.09	5	0.50	－	－	－	－	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	228	4.22	47	3.36	41	3.73	42	4.20	24	3.43	19	4.75	18	9.00	37	6.17
水痘	22	0.41	14	1.00	4	0.36	1	0.10	1	0.14	－	－	－	－	2	0.33
手足口病	177	3.28	54	3.86	59	5.36	22	2.20	11	1.57	8	2.00	8	4.00	15	2.50
伝染性紅斑	25	0.46	17	1.21	3	0.27	3	0.30	－	－	－	－	－	－	2	0.33
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	38	0.70	12	0.86	17	1.55	2	0.20	1	0.14	3	0.75	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	22	0.41	3	0.21	3	0.27	－	－	4	0.57	－	－	1	0.50	11	1.83
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	10	0.83	3	0.60	1	0.25	6	6.00	－	－					－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第37週 2015/09/07～2015/09/13)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	39	8	7	12	6	1	2	2	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	13	1	1	6	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	-	-	-	1	2	4	6	4	2	-	2	2	-
感染性胃腸炎	228	8	24	30	22	17	19	13	18	11	7	8	15	7
水痘	22	-	3	5	3	1	4	1	1	1	-	2	1	-
手足口病	177	5	18	62	41	23	12	7	2	2	1	-	2	-
伝染性紅斑	25	-	1	3	5	2	4	4	1	3	1	-	1	-
突発性発疹	22	2	10	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	38	-	3	17	3	3	3	3	2	1	-	1	2	-
流行性耳下腺炎	22	-	-	2	6	1	2	3	2	-	3	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	1	-	1	2

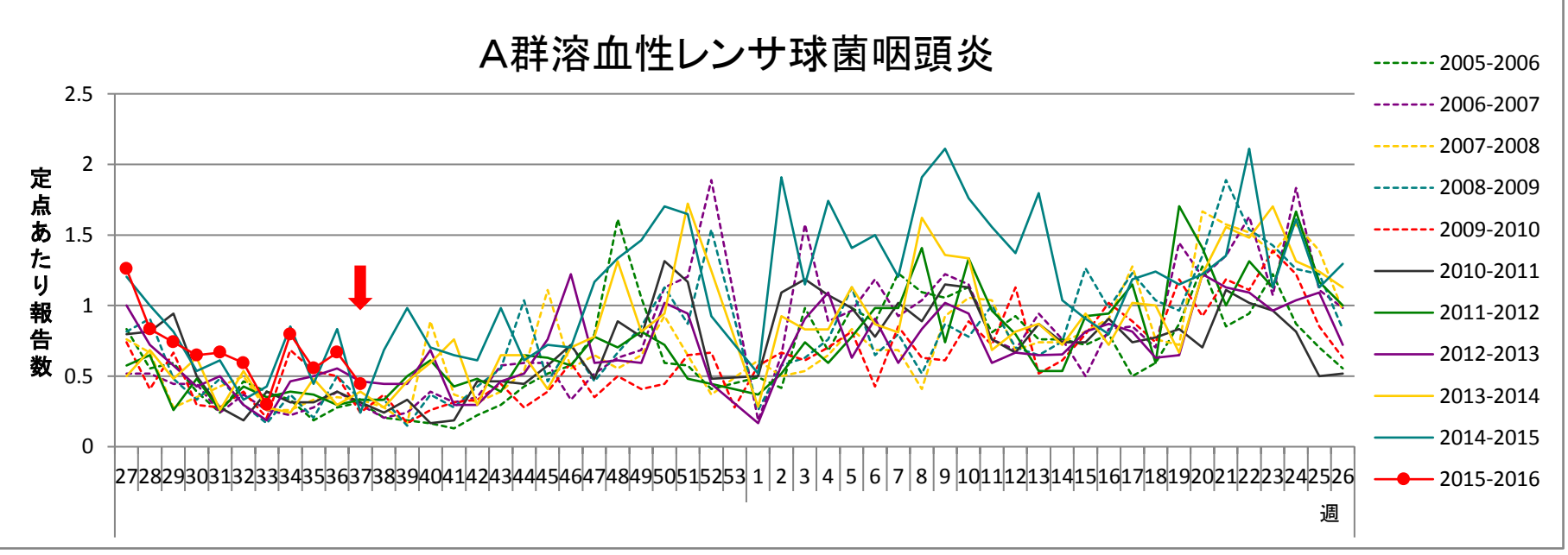
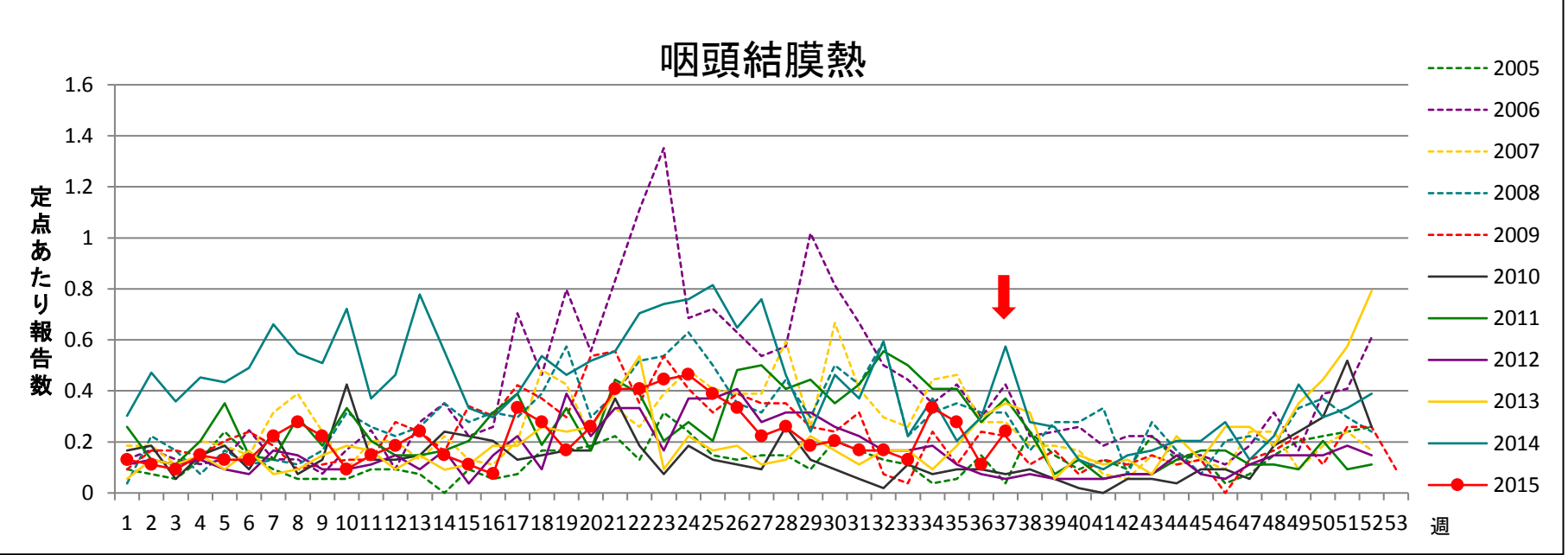
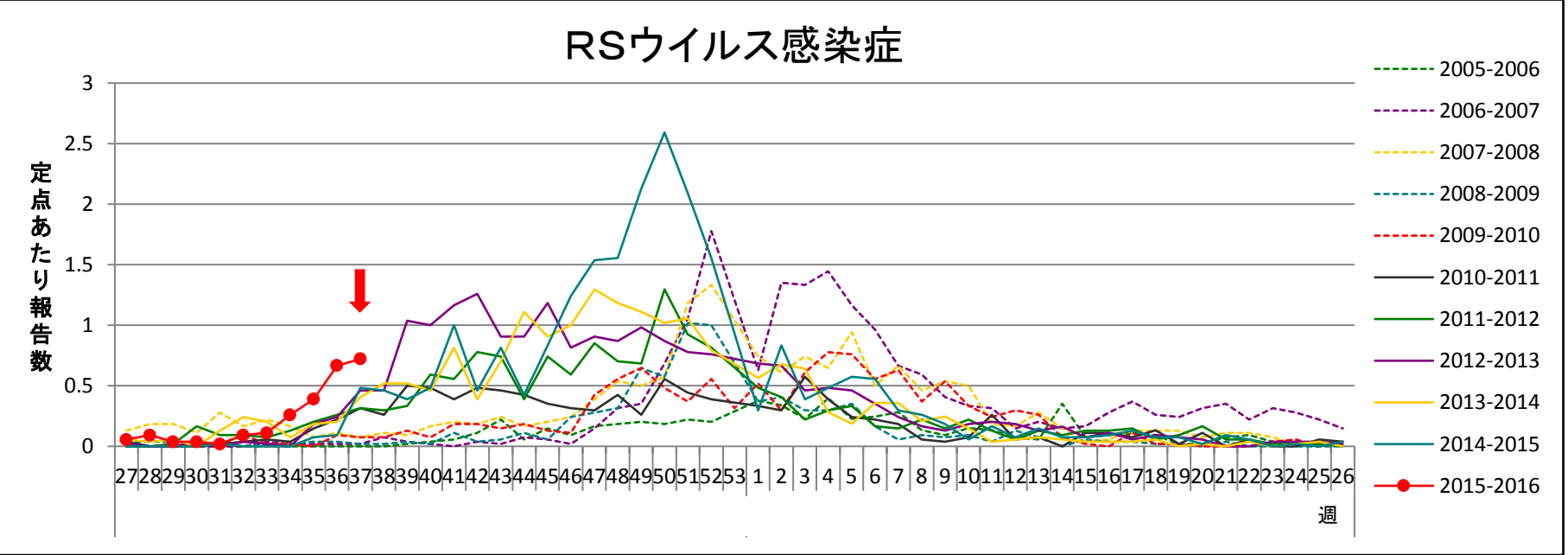
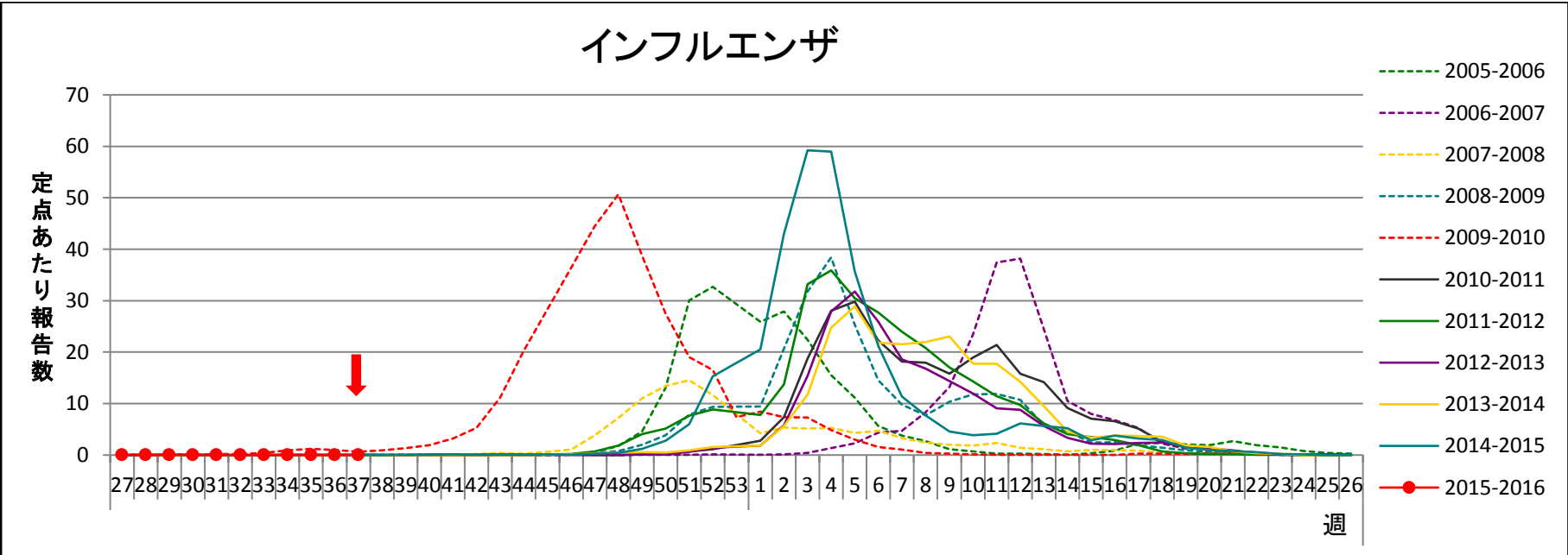
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

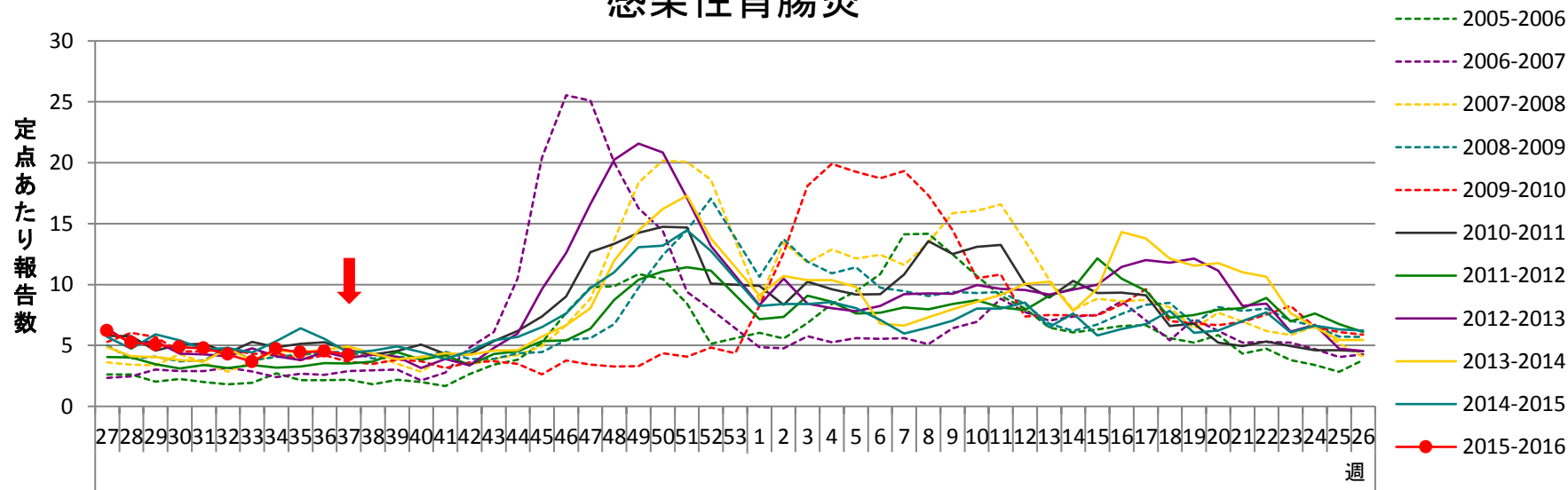
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 37 週

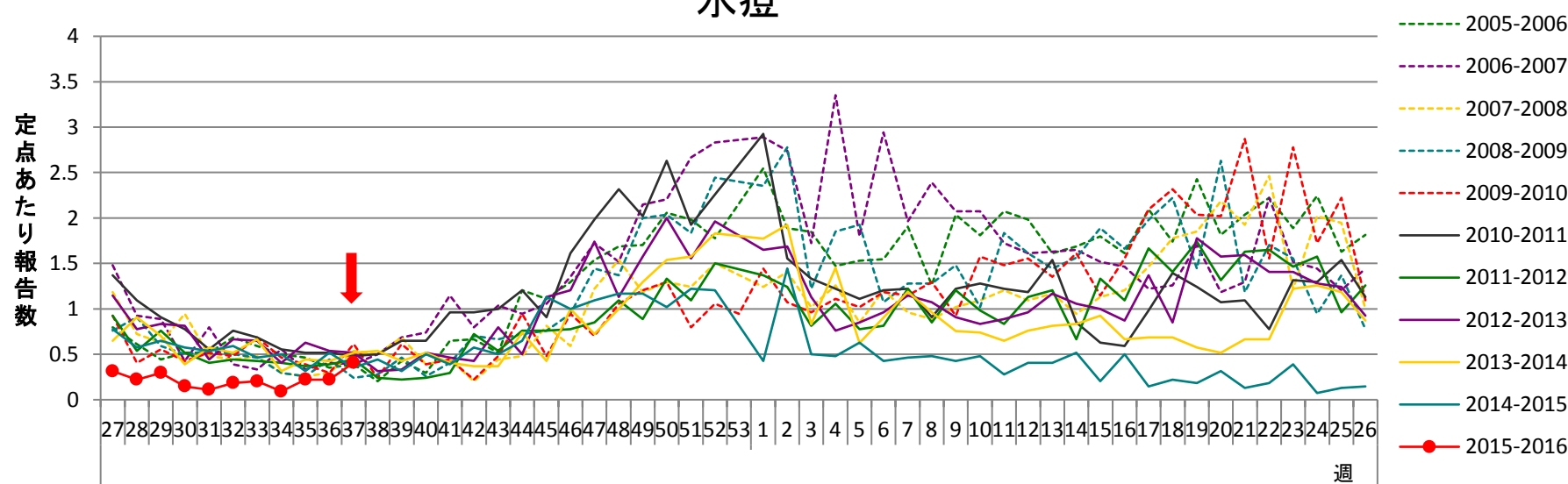
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	4	241	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	1	－	腸管出血性大腸菌感染症	5	54	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	3	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	2	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	1	20	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	15	12	ウイルス性肝炎*3	－	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	26
急性脳炎*4		－	11	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	1	3	後天性免疫不全症候群	－	15	21	ジアルジア症	－	2	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	23	22
水痘(入院例に限る。)		－	4	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	12	21
播種性クリプトкокクス症		－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－



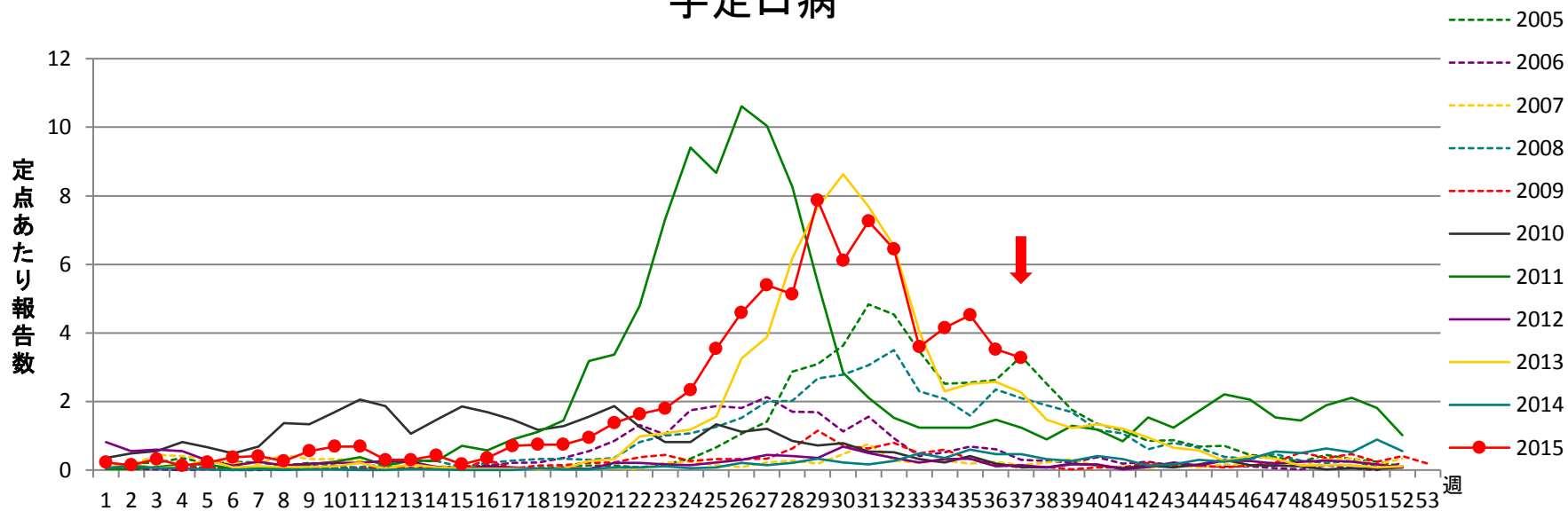
感染性胃腸炎



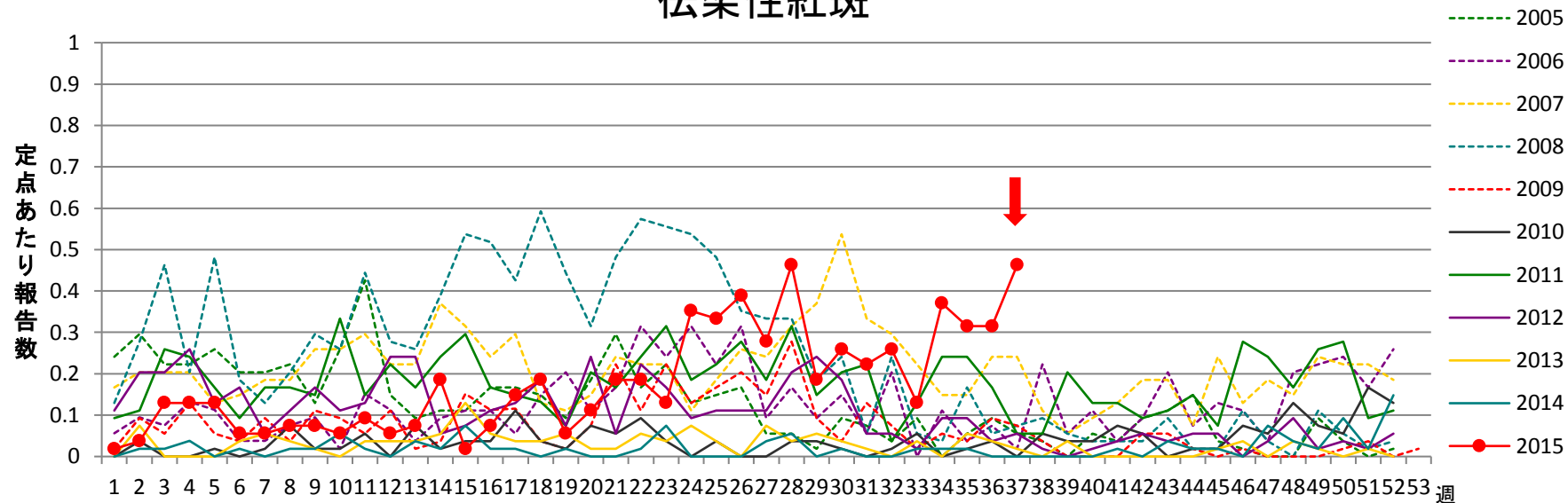
水痘



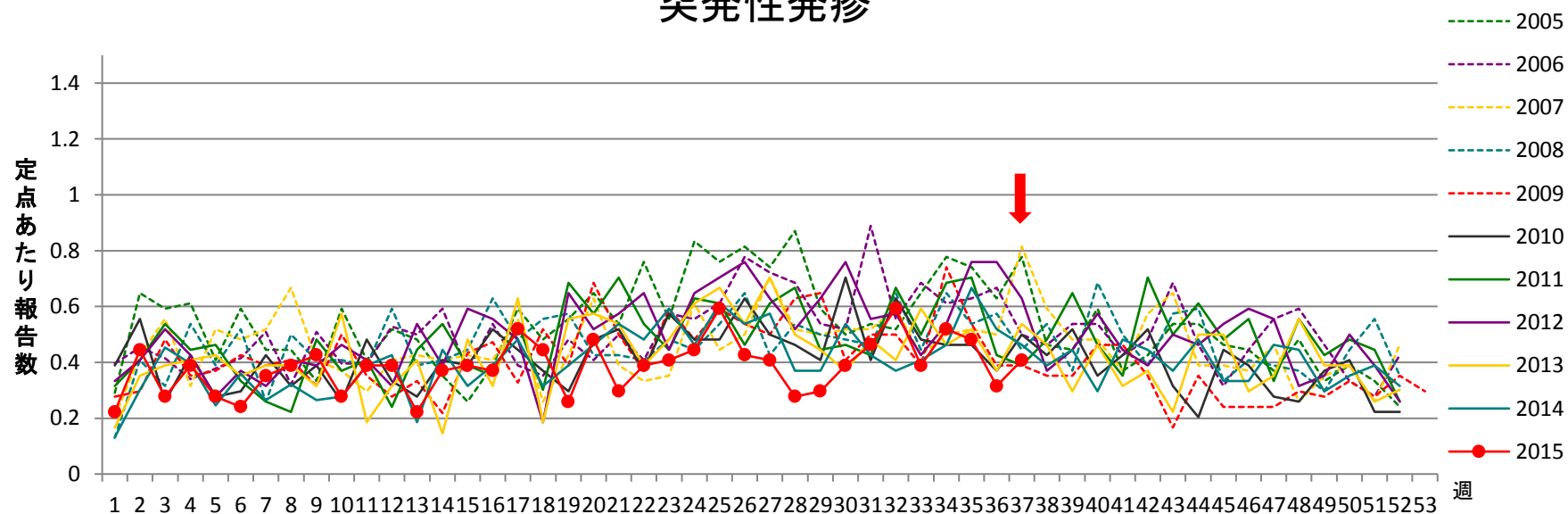
手足口病



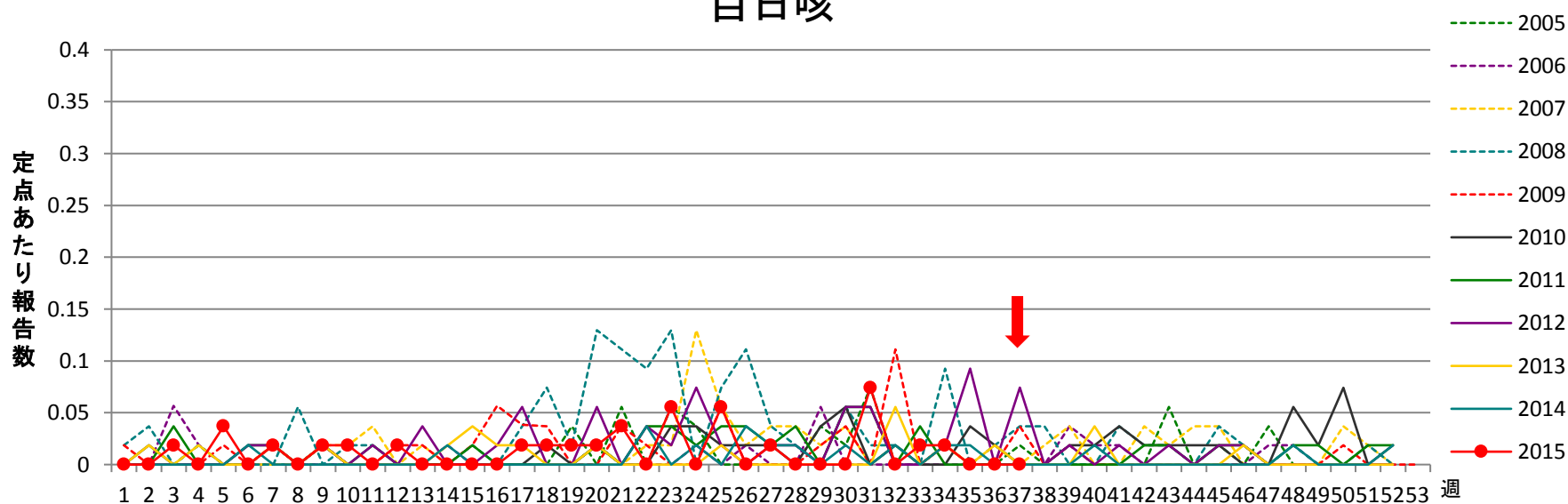
伝染性紅斑



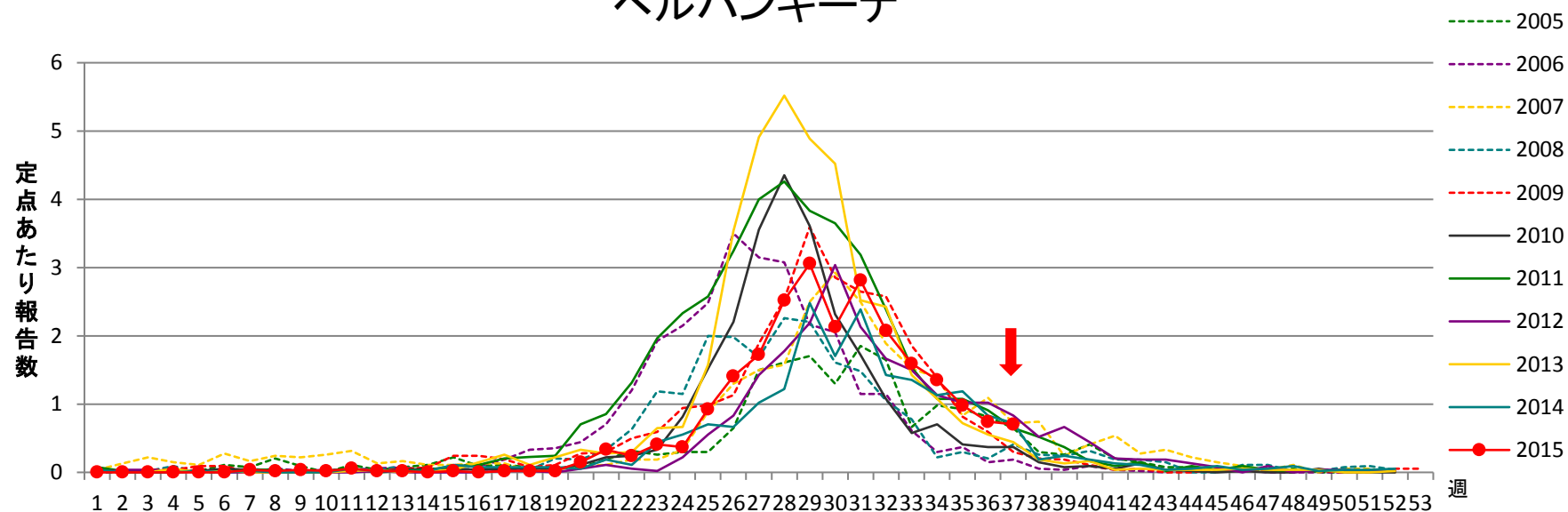
突発性発疹



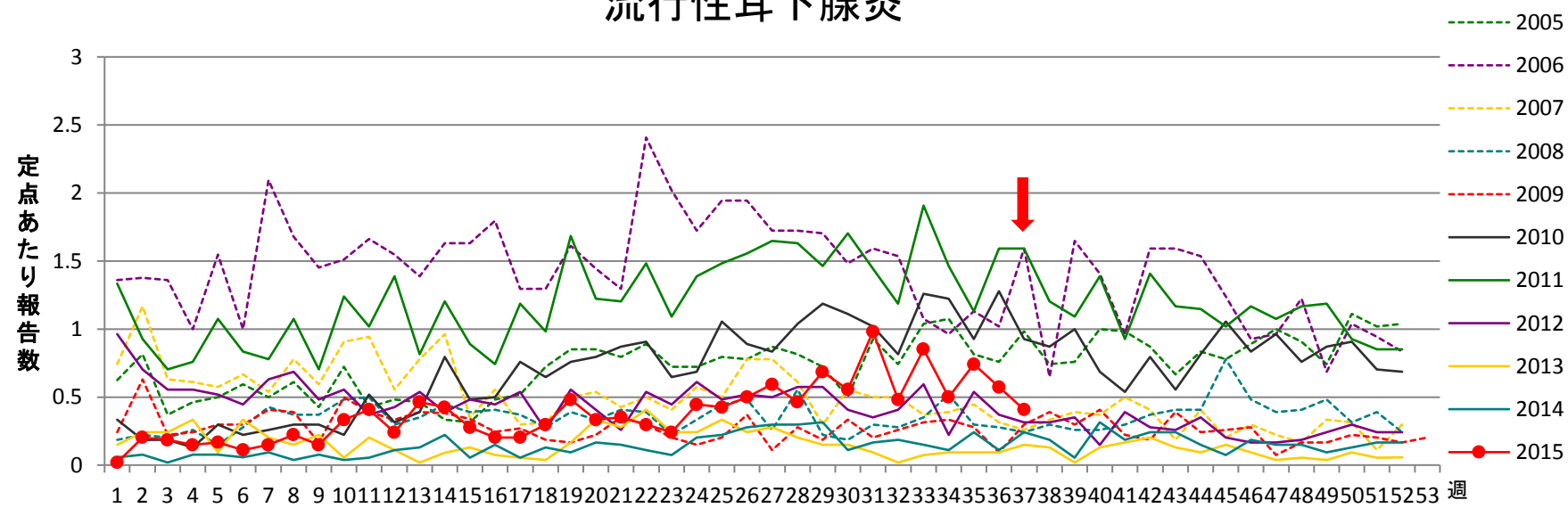
百日咳



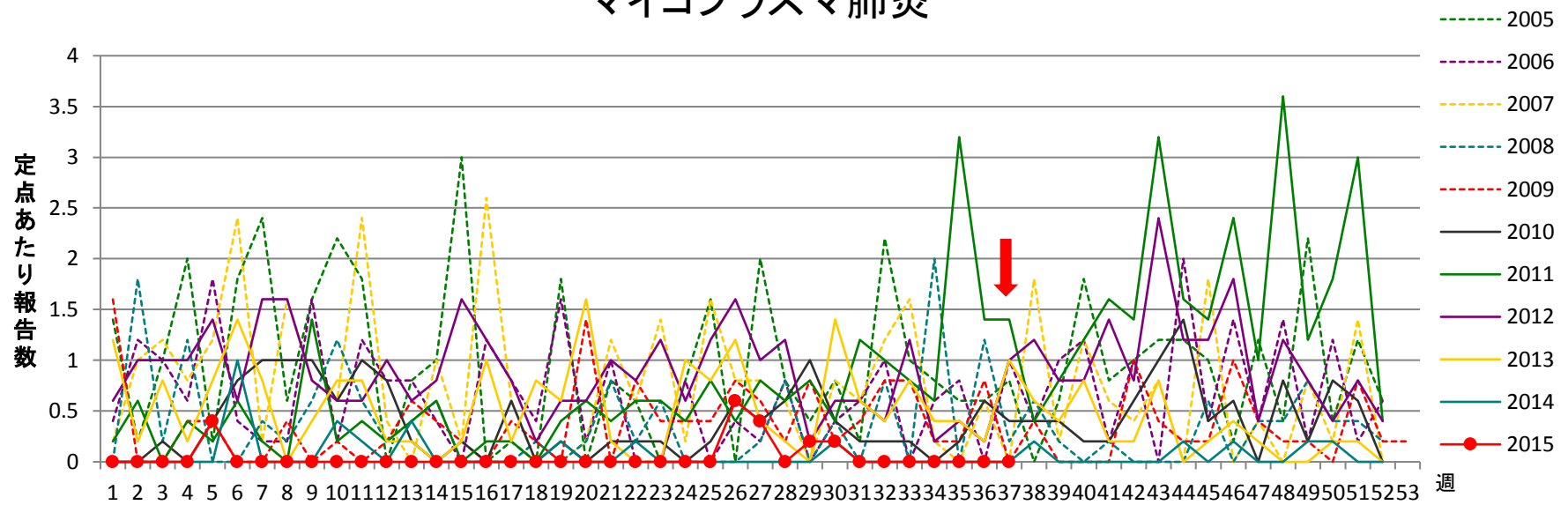
ヘルパンギーナ



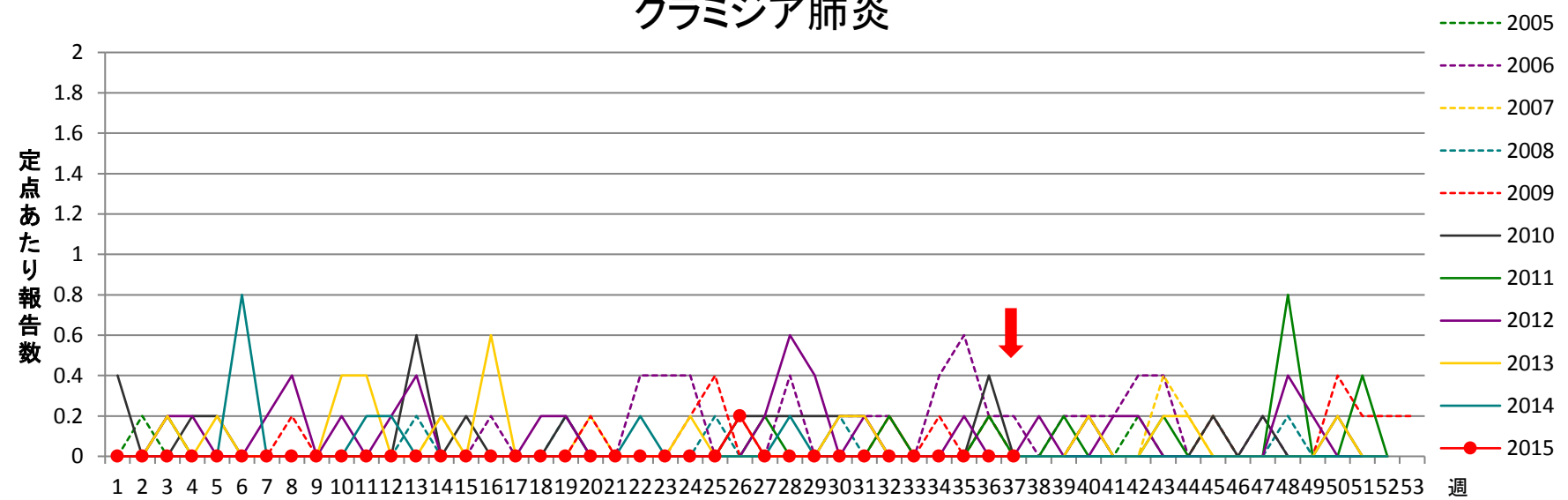
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

